

期は-1.0~-0.8m であることが認められる。したがって、当地区の淡水層（淡水レンズ）の厚さは、非灌漑期は数 10cm 程度であるが、灌漑期は 3m 以上であると考えられる。

地下水温の動態を図 3 に示す。灌漑期は 1.2m で最も高いが、8 月から 9 月以降は低下し、3.2m より低温になることが認められる。灌漑期は田面の温かい湛水が浸透することによって、地下水温を上昇させていると考えられる。

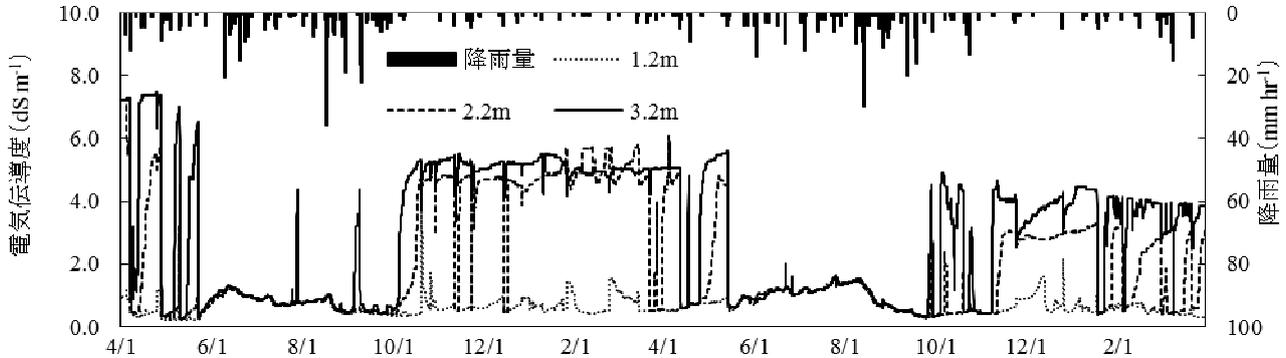


図 1 電気伝導度の動態 (2016.4.1-18.3.31)

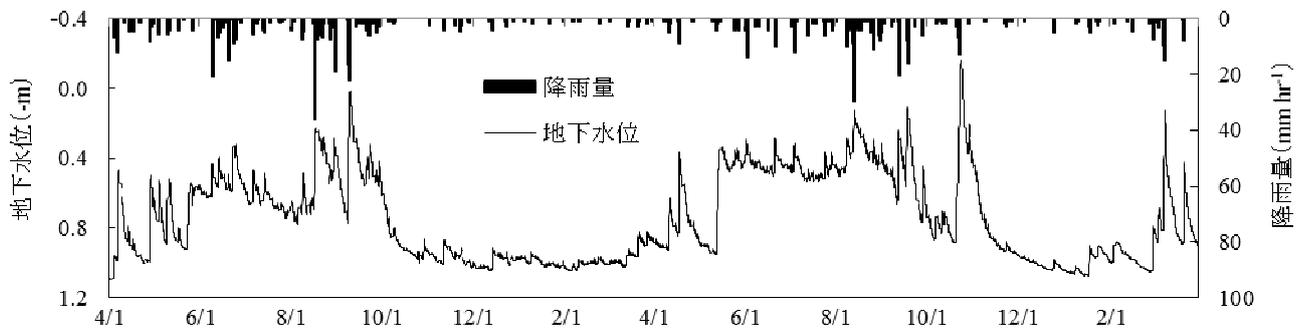


図 2 地下水位の動態 (2016.4.1-18.3.31)

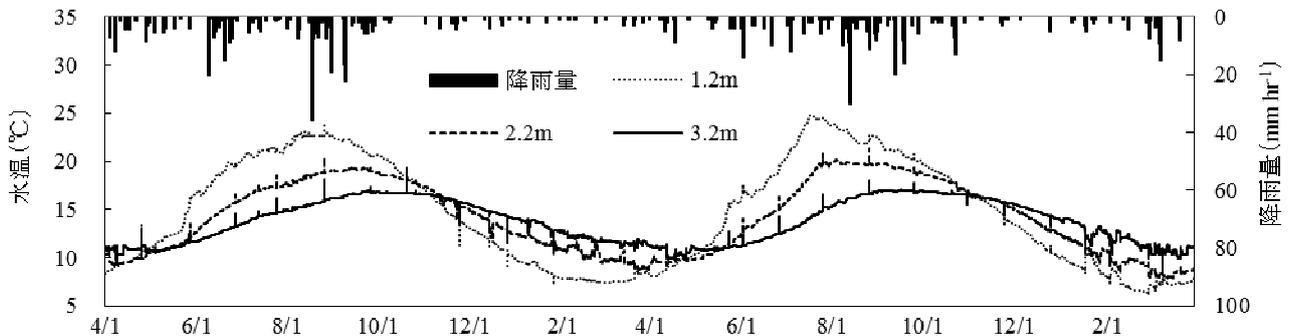


図 3 水温の動態 (2016.4.1-18.3.31)

IV. おわりに

当地区は地下水の塩水化は認められるが、地下水位が低く保たれているとともに、灌漑により淡水層が生成されているため、塩害の懸念は少ないと考えられる。

本研究の一部は、宮城県東部地方振興事務所農業農村整備部に多大な協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

文献

- 1) 千葉ら：津波被災地域の確実な農地復旧のために必要な塩害対策，水土の知 84(6)pp.23-26 (2016)